

錦江に生きる

じゅういちにん目

福山 敏史さん
ふくやま としふみ

(麓住宅自治会)

ニジマス釣り用の竹竿を慎重に点検する敏史さん(でも、なぜかカメラ目線) ◀



このコーナーでは、町内これから根を張っていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。
 第11回目は、麓住宅自治会の福山敏史さんです。

また寒さの残る奥花瀬に福山敏史さんを訪ねると黙々と釣り竿の点検をしていた。

脱サラをし奥花瀬のニジマス釣り場を始めたのが約7年前。当時旧田代町役場経済課に勤務していた敏史さんはニジマス釣り場の前経営者から後継者の相談を受けていたが、後継者探しがなかなか進まず、いろいろ策を練っているうちに「自分が後継者になればいいんじゃないか」と考えるようになったという。家族に相談したところ、奥さんの千鶴さんは後押ししてくれたが両親はかなり心配らしい。しかし、自分の道を進みなさいと言う両親の一言で、後継者への道を選ぶことへの迷いが無くなったと、感慨深そうに話した。

敏史さんは現在、千鶴さんと二人三脚で春から秋にかけてのニジマス釣り場の経営と出荷用のニジマスの養殖を行っており、「毎日が楽しくて仕方ない。今、更なるステップアップを模索中で、この考える作業も夢が拡がって幸せな時間です。」と楽しそうに話した。

苦労はないですか。との質問に、「ほとんどありません。でもひとつだけ、台風が来ると養殖場に張り付かなければならず、家を空けることが心配です。」と家族想いの敏史さんらしい答えが返ってきた。続けて趣味の野球と飲ん方に苦労している、と敏史さん。焼酎で丸くなったお腹に眼をやりながら、昔は動けたのになあ、と焼酎と野球を両立させることに一番苦労していると訴えた。仕事の苦労を聞きかかったのだが…。

最後に一言お願いしたら、「奥花瀬は本当に素敵なところですよ。この大自然の中にと最高に気持ちがいいです。」と最高の笑顔で話した。続けて、釣り場の宣伝をしようとしたので丁寧に断りしておきました。

敏史さんは、笑顔が素敵な魅力いっぱい夢いっぱいこの好青年でした。

錦江町

おもいで写真館

昭和30年代 田代地区の懐かしい写真
 提供 中島文雄さん(鵜戸野自治会)

▼昭和32年、牛に「キウマ」を引かせて炭を運ぶ様子(鵜戸野地区) ※キウマ=木馬、梯子状のもの(郷土史参照)



▲昭和35年、季節保育所での集合写真

▶ 写真のご協力をお願いします。 ◀

「錦江町思ひ出写真館」に掲載する写真を募集します。撮影時期・場所・状況等を付けて、役場企画課へ持ち込むか郵送ください。お借りした写真は責任を持ってお返しします。